

小浜島におけるヤエヤマオオコウモリ *Pteropus dasymallus yayeyamae*の餌植物について

嵩原 健二*

Food Plants of the Yaeyama Flying Fox, *Pteropus dasymallus yayeyamae*,
in Kohamajima Island, the Yaeyama Islands

Kenji TAKEHARA*

はじめに

南西諸島にはクビワオオコウモリ *Pteropus dasymallus* に属する4亜種 (エラブオオコウモリ *P. d. dasymallus*、ダイトウオオコウモリ *P. d. daitoensis*、オリイオオコウモリ *P. d. inopinatus*、ヤエヤマオオコウモリ *P. d. yayeyamae*) のオオコウモリが地域ごとに分かれて生息している (阿部ら 1994; 太田, 1992)。こうしたクビワオオコウモリ類の食性については、口永良部島やトカラ列島に生息するエラブオオコウモリについて船越 (1989) の先駆的な研究が見られ、大東諸島に生息するダイトウオオコウモリについては、池原 (1973)、下謝名 (1978) などの報告の他、最近では横田ら (1992 a・b)、伊礼 (1998) などによる餌植物とその植物季節に関する研究などが見られる。

沖縄諸島を中心に生息する亜種オリイオオコウモリについては、丸山 (1992) によって飼育下における餌植物の報告がみられるが、野外においての知見は、池原ら (1981)、高良 (1975)、横田ら (1992)、嵩原 (1994a・b, 1995, 1998)、中本 (2003) など数多くの報告が見られる。さらに、南西諸島の南部の宮古・八重山諸島に生息する亜種ヤエヤマオオコウモリについては、高良 (1969, 1975, 1981) によってフクギ、イヌビワ、ヤエヤマヤシなど10種の餌植物が報告され、サトウキビやパインアップルなどの農作物に食害があることが指摘されている。また、

伊澤・金城 (1998) は宮古諸島に生息する本種の餌植物として、フトモモ、テリハボクなど6種を報告しているが、他の亜種に比較して食性についての知見は少ないように思える。

最近、嵩原 (1995) や宮城・嵩原 (2000) は、南西諸島に生息するクビワオオコウモリ4亜種の餌植物に関する知見をまとめ、特に宮城・嵩原 (2000) は59種にのぼる餌植物を報告している。

筆者は小浜島に生息する亜種ヤエヤマオオコウモリ (写真1) が利用する餌植物について、断片的ではあるが若干の知見を得たので報告する。本報告がヤエヤマオオコウモリの餌植物を把握する一助になれば幸いである。

調査地及び調査方法

調査地である小浜島は、八重山諸島の西表島に隣接する広さ7.84km²の島である (図1)。ヤエヤマオオコウモリの主な休息地となる森林地域は、島で最も高い大岳 (99.4m) や「なかやまおん」などの御嶽林、石長田のマングローブ林を主体とした海岸林などに残存している。

本調査は総合調査の一環として実施された島全域を対象とした鳥類調査 (2002/2/25, 5/29, 2003/3/6) の際に、本亜種の採餌行動の直接観察や餌植物を採食した後に樹下に落下するペリットや果実に残る食痕等に着目し、直接観察により調査を実施し

※ 〒903-0823 沖縄県那覇市首里大中町1-1 沖縄県立博物館

* Okinawa Prefectural Museum, 1-1, Onaka-cho, Shuri, Naha, Okinawa 903-0823, Japan

た。なお、1995年9月に実施した筆者による独自の調査資料の他、鳥類調査の際に住民や学校等での餌植物に関する聞き取り調査資料も本報告に加味した。

結果と考察

調査の結果、オオバイヌビワ、ギランイヌビワ、ビロウ（写真2）、サトウキビ、シマグワ、テリハボク（写真3）、モモタマナ、デイゴなど8種の利用が確認された（表1）。特にサトウキビについては、2003年3月6日の調査時に製糖工場南東側の農耕地で（図1）、収穫中途のサトウキビ畑の一角に多数の食痕が確認され、その食害が追認された（写真4，5）。採食部位は収穫のため梢頭部が切断された茎上部の部分で、その部分は鋭利な歯でかみ砕かれて毛羽立った食痕を呈していた。

本亜種のサトウキビの被食（食害）については、高良（1981）や沖縄タイムス社の記事（1981年3月27日付朝刊）などによって、石垣島吉原での採食例が知られている。小浜島で観察されたサトウキビの被食部位の観察状況は、高良（1981）の記録に酷似していたことから、今回の観察はその指摘を裏付けるもので、石垣島以外では初めての報告になるものと思われる。

さらに2002年2月25日の調査で、本亜種によってビロウの花茎が利用された。本亜種ではヤシ科であるヤエヤマヤシやコミノクロツグの採食が知られ（高良，1975）、ビロウ類の花茎の採食は、横田ら（1992b）によって、ダイトウオオコモリがダイトウビロウを好んで採食することが知られている。し

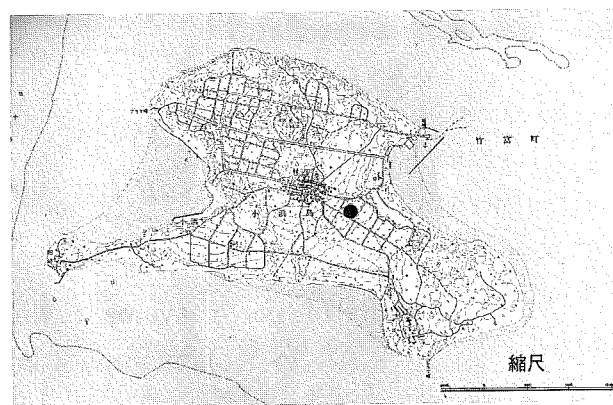


図1 ヤエヤマオオコウモリによるサトウキビ採食確認地
（凡例：確認地●）

かしながら、それ以外の亜種ではその採食は確認されていない。したがって、本亜種はダイトウオオコウモリと同様にビロウ類を利用することが確認された。

他にオバイヌビワやギランイヌビワなどのクワ科の植物利用が確認された。これらクワ科植物はオオコウモリ類に好んで採食されることが知られていることから、本調査では採食が未確認のガジュマルやイヌビワ、ハマイヌビワ、カジノキなどが利用されている可能性は高いものと思われる。

調査課題

今回の餌植物調査は、鳥類調査のため島を3回訪れた際に実施したものであり、かなり見落としがあるものと思われる。

宮城・嵩原（2000）は南西諸島に生息するクビワ

表1 小浜島で確認されたヤエヤマオオコウモリの餌植物

種 名	採食部位	採食確認時期	備 考
オオバイヌビワ	果実	2月	
ギランイヌビワ	果実	9月	
ビロウ	花茎	2月	屋敷内
サトウキビ	茎	2月	栽培
シマグワ	果実	9月	
モモタマナ	果実	2月	植栽
テリハボク	果実	2月	植栽
デイゴ	花	3月	植栽

オオコウモリ類の餌植物が59種におよぶことを報告しているが、その餌植物リスト中には小浜島に分布する植物がいくつかあり、今後こうした調査を継続することで、本亜種が利用する餌植物の種類はさらに増加するものと思われる。また、餌植物の採食期間等についてもさらに新たな知見が加えられるであろう。

引用文献

- 阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会.
- 船越公威. 1989. エラブオオコウモリの食性について. 自然愛護. 15:2-7.
- 池原貞雄. 1973. 大東島の陸産脊椎動物. 大東島天然記念物特別調査報告, 文化庁, pp. 52-63.
- 池原貞雄・安部琢哉・知念盛俊・与那城義春・千木良芳範・日越国昭・三井興治. 1981. 北部山地の特殊脊椎動物, ケナガネズミ実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第22集, 沖縄県教育委員会, pp. 51-57.
- 伊礼青勝. 1998. ダイトウオオコウモリ *Pteropus dasymallus daitoensis* の南大東島における野外観察. 学会記事. 沖縄生物学会第35回大会プログラム・講演要旨. 沖縄生物学会.
- 中本敦. 2003. オリイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus* の採餌戦略・餌資源の季節変化の影響. 琉球大学大学院理工学研究科修士論文. 53pp.
- 丸山勝彦. 1992. 飼育条件下におけるオリイオオコウモリの生態的研究. ダイトウオオコウモリ保護対策緊急調査報告書, 沖縄県教育委員会, pp. 257-269.
- 宮城朝章・嵩原健二. 2000. 末吉公園の植物相とオオコウモリの餌植物. 沖縄県立博物館紀要 (26) : 47-84.
- 太田英利. 1992. ダイトウオオコウモリを含むクビワオオコウモリの分類学的・生物地理学的研究の歴史と問題点. ダイトウオオコウモリ保護対策緊急調査報告書, 沖縄県教育委員会, pp. 91-98.
- 下謝名松榮. 1978. 南・北大東島および沖縄南部地域の洞穴動物相. 沖縄県洞穴実態調査報 I. 沖縄県教育委員会, pp. 75-111.
- 嵩原健二. 1994a. 宜野湾市伊佐、大山、宇地泊周辺地域の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要 (20) : 67-97.
- 嵩原健二. 1994b. 沖縄県立博物館周辺地域におけるオリイオオコウモリの食性と餌植物の季節変化について (予報). 博友. (8):11-25. 沖縄県立博物館友の会.
- 嵩原健二. 1995. 南西諸島に生息するオオコウモリ類の餌植物について. 博友. (9):73-79. 沖縄県立博物館友の会.
- 高良鉄夫. 1969. 琉球の自然と風物. 琉球文教図書.
- 高良鉄夫. 1975. 動物. 自然保護のためのおきなわの自然. 沖縄県, pp. 115-121.
- 高良鉄夫. 1981. 於茂登岳および周辺地域の動物相. 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告 於茂登岳及びその周辺地域. 沖縄県, pp. 143-159.
- 横田昌嗣・宮城康一・西平守孝・嵩原健二・宮城邦治. 1992a. 北大東島におけるダイトウオオコウモリの餌植物相と食痕の地理的分布からみた場所利用. ダイトウオオコウモリ保護対策緊急調査報告書. 沖縄県教育委員会, pp. 161-182.
- 横田昌嗣・宮城康一・丸山勝彦. 1992b. 南・北大東島の植物季節—ダイトウオオコウモリの餌植物を中心に—. ダイトウオオコウモリ保護対策緊急調査報告書. 沖縄県教育委員会, pp. 183-190.

図版 I



写真1 ヤエヤマオコウモリ

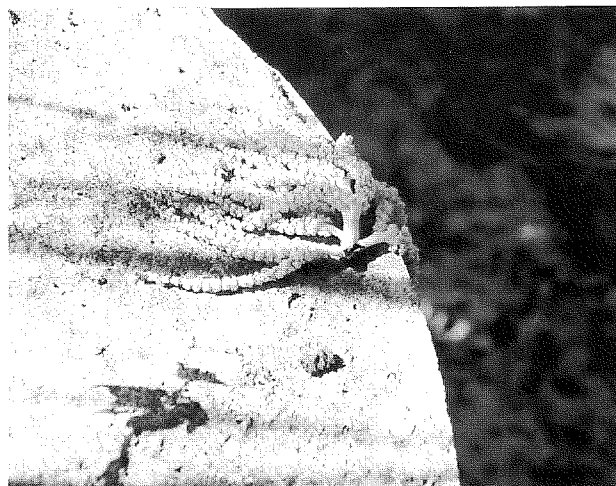


写真2 ビロウの食痕とペリット



写真3 テリハボクの食痕



写真4 サトウキビ食痕(1)



写真5 サトウキビ食痕(2)